



UNAIDS プレスリリース

エイズパンデミックの 2030 年終結は可能だが、あくまで対策資金をただちに増額し、人権を守った場合に限られる UNAIDS が新たな年次報告書

2024 年 7 月 22 日 ジュネーブ／ミュンヘン UNAIDS は本日、新たな年次報告書（Global AIDS Update 2024）を発表した。公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を 2030 年までに達成するという約束を世界の指導者たちが果たせるかどうか。それを決定づける重大な局面にいま直面していることを強調するものだ。『今まさに緊急事態：岐路に立つエイズ』と題した報告書は、世界の指導者らが 2024 年に下す決断と政策の選択が、何千万もの人の命と運命を左右し、世界で最も致命的なパンデミックの克服が可能かどうかを決定付けることを最新のデータと事例報告で示している。

エイズ終結は私たちの手の届くところにある。ただしこの 10 年間、世界はその終結に向けた軌道から外れている。世界全体で 3990 万人の HIV 陽性者のうち、ほぼ 4 分の 1 にあたる 930 万人は命を救うために必要な治療を受けることができず、その結果として 1 分に 1 人がエイズ関連の原因で死亡しているのだ。

世界の指導者たちは、2025 年までに HIV の年間新規感染者数を 37 万人以下に減らすことを約束してきた。ただし、2023 年の新規感染者数はその 3 倍以上の 130 万人に達する見込みである。必要な資金は削減され、人権侵害の動きが高まっていることから、これまでの成果の維持すら危うくなっている。

「指導者たちは、公衆衛生上の脅威としてのエイズパンデミックを 2030 年までに終わらせることを誓約しています。その約束の実現は可能です。ただし、それは HIV 対策に必要な資金を確保し、すべての人の人権が守られることを保障できた場合に限られるのです」と UNAIDS のウィニー・ビ

ヤニマ事務局長は語る。「指導者たちがその気になれば、何百万もの人の命を救い、何百万人も新たな HIV 感染を防ぎ、すべての HIV 陽性者が健康で充実した生活を送れるようにできるのです」

報告書によると、指導者たちが十分で持続可能な資金を確保し、すべての人の人権を守るために必要な行動を今すぐ取れば、生涯にわたる治療が必要になる HIV 陽性者の数は 2050 年までに約 2900 万人に減る見込みだが、進路を誤れば、生涯にわたる支援を必要とする人が 4600 万人（2023 年は 3990 万人）に拡大することになる。

HIV 陽性者への治療薬の普及は（緩やかではあるが）拡大を続けてきた。必要な治療を受けている人は現在、HIV 陽性者全体の 4 分の 3 に相当する 3070 万人に達している。2010 年当時の治療の普及率は 47%にとどまっていたことを考えると、この拡大は、公衆衛生における画期的な成果であり、エイズ関連の年間死亡者数は 2010 年に 130 万人だったのが、2023 年には 63 万人へと半減している。

それでも、2025 年までにエイズ関連の死亡者数を 25 万人以下に減らすという目標の達成軌道からは外れているのだ。

世界の新規 HIV 感染件数は 2010 年当時と比べると 39%減少した。特に東部・南部アフリカでは 59%も減少するなど、新規感染予防にも大きな進歩がみられている。その一方で、中東・北アフリカ、東ヨーロッパ・中央アジア、ラテンアメリカの 3 地域では逆に新規感染が増加しており、格差と不平等が依然として残っていることを示している。

「各国は 2030 年までのエイズ流行終結に向けて大きな進歩を遂げていますが、その努力を阻む可能性のある課題も数多くあります」と、元米国大統領科学顧問のアンソニー・ファウチ博士はいう。

「私たちは常に声を上げ、可能な限り積極的に行動しなければなりません。失敗は許されないので。実際、それは考えられません。みんなが協力すれば、目標は達成できます。私自身はエイズ流行を本当に終わらせるために全力を尽くし続けるつもりです。皆さんにも、同じことを約束していただきたい」

ジェンダーの不平等が少女や女性の直面するリスクを高め、パンデミックの拡大要因となっている。東部・南部アフリカおよび西部・中部アフリカ地域では、思春期の少女や若い女性の HIV 感染率が非常に高いところが依然としてある。

社会からの排除を受けやすいコミュニティへのスティグマと差別が、予防と治療サービス利用を阻む障壁となっていることから、世界の新規 HIV 感染者数に占めるセックスワーカー、男性とセックスをする男性、注射薬物使用者といったキーポピュレーションの人たちの割合は、2010 年に 45%だったのが 2023 年には 55%に拡大している。

人権を確保し、女性、および社会から排除されがちな人たちに対する不公平な法律を廃止し、差別や暴力に正面から取り組むことがなければ、HIV 予防・治療サービスが必要な人達には届かないことを報告書は示している。

UNAIDS の試算によると、HIV 関連の資金の 20%は HIV の影響を最も大きく受けている人たちの HIV 予防にあてる必要があるが、2023 年にはキーポピュレーションの人たちに向けた予防対策資金は、HIV 関連支出全体のわずか 2.6%に過ぎなかった。

世界的な資金の縮小が続き、成果を妨げ、地域によっては流行の拡大も招いている。2023 年には、HIV 対策に利用可能な資金の総額は 198 億ドルで、2022 年より 5%減少した。2025 年までに必要な年間資金額 (293 億ドル) と比べると 95 億ドル不足している。HIV 資金総額の 59%を占める低・中所得国国内の国内資金も、債務危機による制約を受け、2023 年には前年より 6%減っている。4 年連続の減少となった。

資金確保に力を入れなければならない。とりわけ HIV 陽性者数が 2050 年にはほぼ倍増すると予想されるアジア・太平洋地域、流行が拡大しているのに資金の減少が著しい東ヨーロッパ・中央アジア地域やラテンアメリカ地域、中東・北アフリカ地域では資金確保が重要になる。2025 年までに必要とされる資金額の約半分、そして現在の HIV 資金不足の 93%は、サハラ以南のアフリカ以外の地域で必要となっているのだ。

公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結という世界の共通目標を 2030 年までに達成し、持続可能な HIV 対策の構築につなげられるかどうかは、2024 年の決定にかかっている。報告書『今まさに緊急事態：岐路に立つエイズ』はこのことを強調している。

「国家間、そして国家内における連帯が弱まり、これまでの成果も危機にさらされようとしています。しかし、エイズ終結は指導者たちが約束し、達成できることもすでに明らかにされている道です。約束を果たせるかどうか、それは指導者たちの政治的、財政的選択にかかっています。いまこそ正しい道を選択する時なのです」とビヤニマ事務局長は語っている。

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団

参考：HIV 統計（世界全体、ファクトシートから）

- ・ 2023 年現在の世界の HIV 陽性者数 3990 万人 [3610 万-4460 万人]
- ・ 2023 年の年間 HIV 新規感染者数 130 万人 [100 万-170 万人]
- ・ 2023 年の年間エイズ関連死者数 63 万人 [50 万-82 万人]
- ・ 2023 年現在抗レトロウイルス治療を受けている HIV 陽性者数 3070 万人 [2700 万-3190 万人]
- ・ 流行開始以来 HIV に感染した人の数 8840 万人 [7130 万-1 億 2800 万人]
- ・ 流行開始以来エイズ関連の疾病で死亡した人の数 4230 万人 [3570 万-5110 万人]